

令和芳野も春はあけぼの



枕草子 清少納言
春はあけぼの。やうやう白くなりゆく
山ぎは、少しあかりて 紫立ちたる雲の
細くたなびきたる。

【外輪山から日の昇る光景 雲海が広がっている一帯は岳地区】

3月も半ばを迎え、子どもたちは卒業証書授与式や修了式へ向けて充実した日々を過ごしています。学校の道路わきではふきのとうなどが芽を出し、百年桜のつぼみが膨らむなどして、**春の訪れ**を告げています。

日の出が早くなっています。私は金峰山の**外輪山**を上る通勤路が好きです。特にこの時期の**夜明け前後**の雰囲気大好きです。見晴らしのよいところで自動車のエンジンを切り、外へ出ることもあります。周囲は**静寂**に包まれています。すると、静かなカルデラから**ウグイス**の音が聞こえてきます。その声のおかげで、さらに**静寂感**が増します。そのような金峰山一帯を見ながら頭に浮かぶ言葉が「**春はあけぼの**」というフレーズです。



【夜明け前の静寂に包まれている山裾の家々】

枕草子そのものの世界

ご存じのように、これは清少納言の「**枕草子**」の冒頭の部分です。芳野の夜明けを見ながら一節を思い出すと、**心が安らぎ**ます。

次第に白んでくる山際には、青みがかった雲がたなびいていきます。芳野の春の**夜明け**の光景を見ると、とにかく**ほっと**します。

そしてだんだんと東から空が白んできて、山と空の境目辺りが少し明るくなってきて**趣**を感じます。紫がかった雲が静かな芳野の光景の**長閑(のどか)**さを高めます。まさに、**枕草子そのもの**の光景です。

芳野の遺産である平穏なあけぼのを永久に

眼下には**牧歌的**な光景が広がっています。遠くに見える家々のいくつかには**子どもたち**も住んでいるはず。まだ子どもたちの多くは**夢**の中でしょう。**穏やかな**空気に包まれている家々を眺めると、私自身**幸福感**に包まれます。「この長閑な朝が子どもたちの**健やかな**成長と**幸せな**一日につながっていくのだろう。」と感じます。

このように芳野の**平和な**曙はとても素敵です。平和な曙が**永久(とわ)**に続いてほしいと願いつつ、私は車に乗り込み、再び学校へ向かいます。私は**通勤さえも幸福な時間**にしてくれる素敵な芳野に**感謝**しています。

※今回の記事は、子どもたちに芳野の夜明けの光景も自分たちの貴重な遺産であることを知らせたくて書きました。

【御礼】学校だより「まごころ『芳野』」は、号外を除いて通算百十五号となる今回が最終号となります。これまでお読みいただきました皆さま、誠にありがとうございました。